

Bulletin 213

2009年2月号

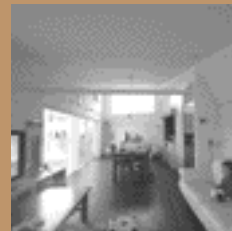
COLONNADE

- トリノから ————— 赤間 太一 氏 2
- 災厄としてのトラウマからの回復
————— 兵庫教育大学大学院教授 岩井 圭司 氏 4
- 「メールだったらできる」というあなたに朗報！
JIA活動報告が簡単にできます ——— 広報委員会HPWG主査 中澤 克秀 6



FORUM

- 『衣食住』の「住」として ——— 一級建築士事務所タステンアトリエ 阿部 智樹 7
- 住宅的に考える ————— タラオ・ヒイロ・アーキテクト 多羅尾 直子 7
- 三澤千代治さんに「これからの住宅」を聞く ——— Bulletin編集委員 8
- お台場回りや巻夜間照明見学 ————— 蒼設備設計 相野谷 誠志 10
- 第18回保存問題神奈川大会プログラム紹介 倉澤智建築事務所 倉澤 智 11
- 「良い建築を知るには、良い建築を見るのが一番である」
————— 島田建築事務所 島田 喜男 12
- 「第15回JIA栃木クラブ・スクール in 栃木」
————— アトリエ慶野正司一級建築士事務所 慶野 正司 13
- 管理建築士みなし講習を受けて ————— 創和設計 櫻田 修三 14



BACKYARD

- 渡辺武信氏講演会：住宅における物語性と
ヴァナキュラー性の意味 ——— 連健夫建築研究所 連 健夫 15
- 飲食店にはグリース阻集器の設置が義務づけられています
————— 東京都下水道局 16
- 選挙公報 ————— 17
- 支部ダイジェスト 11/12月 ————— 20
- 新コーナー！ 建材情報 ————— 20
- こんな本を読みました『灰の文化誌』
————— レジオン・コンサパティブ 三上 紀子 21
- 編集後記 ————— 21



トリノから

都市の大きな物語



赤間 太一 氏

1999年大学を卒業し、初めてヨーロッパの地を踏んだ私は、留学先であるイタリアのトリノへと向かった。そこで体感した自由で無理のない生活感は、その後の自分の生き方だけでなく、建築・都市・まちづくりなどへのアプローチに大きく影響を及ぼした。帰国後、数年の実務経験を経た2007年、もう一度その地へと足を踏み入れることとなった。現在、オリンピックを経て、200haという広大な都市計画が推進され、近代化しようとしているトリノは、一見すると大きく変貌した気がするのだが、トリノの都市史を興味深く調べてみると、その変貌も歴史の中に組み込まれた一つのプログラムであったということを知ることができる。そこで、トリノ工科大学で最も興味深かった授業の一つである近代建築史におけるトリノの建築史部分に関して、また同大学で共に在籍した鈴木氏と調査を行なっている建築・都市計画史の一部も含めて町の系譜を紹介したいと思う。

トリノはローマ植民都市の典型である方形グリッド型の都市から発展した。そして都市内の南北・東西路は今も変わらず町のメインストリートとして利用されている。ローマ時代以降のトリノは15世紀まで際立って重要な

位置を占めてはこなかったが、歴史の中で重要性を増すことになるのは、イタリア王国の初代国王となるヴィットーリオ・エマヌエーレII世(1820-78)を輩出するサヴォイア公国が現フランスのシャンペリーからトリノへ遷都する1561年以降である。サヴォイア家はお抱えの建築家や技師を使い、近代に至るまでトリノの大規模な拡張を三度行なった。その拡張によりトリノの規模はそれまでの5000人から3万5000人規模へと発展を遂げる。この時期は、バロック時期と重なっていたため、トリノはバロックの町へと変貌していった。特に重要な建築は、トリノ市内および、市から一定の距離を置いて地域防衛のために配されたサヴォイア家王宮・城・ヴィッラの建築群であり、その配置から「幸福の王冠」という名で呼ばれている。(その建築群は、「サヴォイア王家の王宮群」という形で世界遺産に登録されている。2007年にその一つであるヴェナリア王宮が一部修復を終えて2008年UIAトリノ大会の開会式典会場として利用された。)サヴォイア家は都市計画も積極的に行なったが、特に圧巻なのは、トリノの西にあるリーポリ城からスペルガ礼拝堂方向へと真っすぐに整備されたフランス通りの都市計画である。サヴォイア家では、リーポリ城は「誕生の場所」、そして墓所のあるスペルガは「死の場所」であり、それを視覚的に結ぶフランス通りが生と死を繋ぐとするこのコンセプトを約20kmという規模で見事に視覚化、



「幸福の王冠」の配置



18世紀初頭3段階拡張後のトリノ

具現化している。

次にトリノが大発展するのは、19世紀に入ってからである。1848年鉄道が開通し、工業化による労働者の流入や、イタリア王国初代首都（1861-65）となったことによる。これにより18世紀末に8万5000人であった人口は、19世紀に32万人に達する。この発展と同時に建てられたモーレ・アントネリアーナは高さ167.5メートルで欧州最高のレンガ造建築であり、約25年をかけて伸びてゆくその巨大建築に市民は、近代化と町の発展を重ねて観たことだろうと想像する。この時期に建てられた工場は、数が多くなるにつれトリノの街を取り囲むような形で形成されていった。それと同時に工場を中心にして労働者住宅、学校、教会などを一体として計画されたビレッジが数多く作られ、現在もそのまま使われているものが数多く存在する。そして1919年にFIATのリンゴット工場が建設され、新しいシンボルがトリノに誕生する。その五階建ての自動車組み立て工場は、上に向かっていくにつれ自動車が組み立てられてゆき、屋上に到着するとそのままテストコースで試走され、工場を出る時にはテスト済みの車として出荷されるというものだ。この建物は、ル・コルビュジエに「この建築は、工業化を象徴する最も象徴的な景観だ」と言わせるものとなる。実は19世紀にトリノでは、三度の万博博覧会が開かれている。その内の二度は「工業と労働」「労働者」がテーマとなっており、その点でも世界の中における工業化のシンボルとしてのトリノの位置づけが浮き彫りとなる。

さて、現在のトリノの規模は90万人であり、その後もスプロール的に発展を続けている。その発展に伴い市内環境の改善や工場の規模の拡大などにより工場は徐々

に郊外へと移転していった。そこで問題となったのが街の中心地と周辺住宅地の間にできた元工場地域である。この地域は一時、廃墟の帯となり、町を横断し、麻薬や犯罪の温床となった。そこで現在の200haに及ぶ再開発へと繋がるのである。時期を同じくしてトリノオリンピックが開催され、一気に計画が軌道に乗った。そのベースとなったのが、ヴィットリオ・グレゴッティのスピナ・チェントラーレ計画（1995）である。Spinaは、背骨を表わし、その軸がSpina 1~4という地域をスズ成りに繋ぐ計画である。その計画には再生のシンボルとして三棟の超高層建築が含まれていたが、その後の計画見直しにより、現在はその内一棟が建設される予定になっている。その超高層建築の選考にあたり国際コンペが行なわれ、MVRDV、アトリエ・ファイ、ダニエル・リベスキンドなどの参加により話題となるが、最終的にレンゾ・ピアノが勝者に選ばれた。さらにSpina 3にあるエンパイロメント・パークは近くを流れる川を利用した水力発電による0炭素地域を目標として建設中で、現代の象徴的開発である。今回文中で紹介できなかったが合理主義（ファシスト時代）、リパティー様式（アール・デコ）などもその時代の発展地域に多く建設されている。このように、トリノは発展時期に応じてその地域ごとにその時代の建築が組み込まれており、それがパッチワークのように広がっている。結局の所、私が見たトリノの変貌は、都市の大きな物語の一部にすぎなかった。そして、東京生まれの私が東京に対する愛着を感じきれない部分があるとすれば、それは、都市の大きな物語的なプログラムが欠如している部分なのではないかと、今さらながら感じるのである。



スベルガの礼拝堂



FIAT社リンゴット屋上のテストコース

災厄としてのトラウマからの回復



精神医学
兵庫教育大学大学院
教授

岩井 圭司 氏

阪神・淡路大震災から14年たって

トラウマ体験とその影響

阪神・淡路大震災は人々の心に大きな傷（心的外傷体験、トラウマ）を残した。

トラウマをこうむった人はその結果として、外傷後ストレス障害（PTSD）をはじめとするさまざまな精神疾患を高率に発症することになる。それゆえ、災害に限らず、トラウマをこうむった人が多数発生した場合 犯罪被害であれ事故災害であれ には、被災者・被害者に対する心のケアが必要になる。

さて、この種の文章では、通常ここでPTSDとはどのような病態を指すのか、どのような症状が見られるのか等々について解説することになるのだが、ここでは敢えてしない。

実は、精神医学的症状の有無は、最も重要な問題ではないからである。

実際、心的外傷体験の影響は、PTSD症状 侵入症状（いわゆるフラッシュバック）や過覚醒（神経過敏）それに各種の回避症状 にとどまるものではない。

トラウマのもたらす真の災厄：離断

トラウマは、人の心に「不信感」を植え付ける。

「不信感」には三つのレベルがある。

- 1) 「自分の住む世界（社会）は危険に満ちている」という 世界（社会）に対する不信、
- 2) 「誰も私のことをわかってくれない」「誰も助けてくれない」という 人間（他人）に対する不信、
- 3) そして、「こんなことでめげている自分が情けない」「もはやふつうの人間にはもどれない」という 自己への不信感 である。

この“三つの不信感”によって、被害者・被災者は通常の間人社会の齟齬信頼と互助のネットワークから切り離されてしまう。地域社会や職場での人間関係を断ち切れ、友情やときには恋愛関係、家族愛までもが失われ、孤立無援状態に陥るのである。しかも、周囲の人物から

は、当の被害者・被災者の方から人間関係を断ったと思われるがちである。

このような事態を、J.L. ハーマン（『心的外傷と回復』中井訳、みすず書房）は「離断」と呼んだ。

トラウマの社会的影響：スティグマ

さらに、心的外傷体験をこうむることによって被害者・被災者は、様々な社会的な不利益を受けることになる。そのことは、例えば女性の性犯罪被害の場合などに特に顕著であって、「被害者にも責任があるのではないか」「きちんとしていれば防げたはずだ」といった周囲の無理が、被害者に社会的スティグマを残す場合が多い。また、トラウマ体験後の休職・失職が経済的困窮を生むことも少なくない。

こういった社会的不利益に見舞われた被害者・被災者は、ますます孤立無援感を深めていく。悪循環である。

トラウマからの回復における目標：再結合

したがって、トラウマをこうむった人に対する“治療”においては、離断状況（孤立無援状態）からの脱却ということが最重要課題となる。社会的心理的に孤立無援状況にある人を、再び人間の絆のネットワークに連れ戻すこと（「再結合」）こそが、トラウマ治療のアルファでありオメガである。

PTSDの症状をはじめとするさまざまな精神症状の軽減をはかることも必要であるが、それはあくまで離断状況の予防、あるいは再結合の達成のためにこそ必要なのであって、その逆ではない。侵入症状（フラッシュバック）などのPTSD症状が消褪したとして、なおも孤独と不安の中で生き続けなければならないのだとしたら、それは回復とはいえないであろう。

ケアとしての傾聴

どの時期においても、被害者・被災者からトラウマ体験を直接聞きだすことには十分慎重であらねばならない。とくにトラウマ体験から間もない時期には、被害者・被災者の心の“生傷”に触れることは避けられたい。

COLONNADÉ

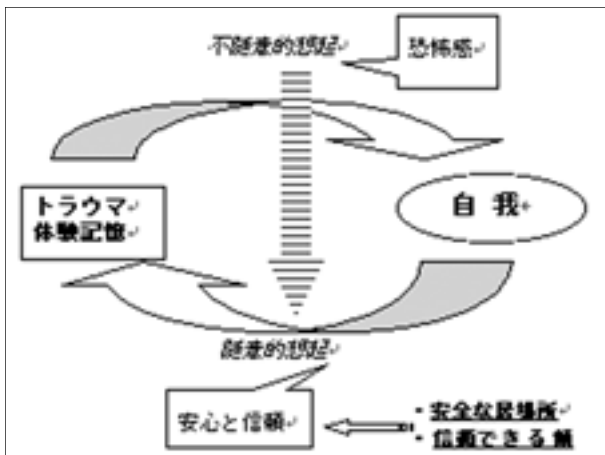


図1 傾聴はトラウマの苦痛を軽減する

しかし、被害者・被災者が自分の信頼できる人物を選んで自ら語り出したときには、専門家でなくともこれに向き合い、傾聴していただきたい。

コメントを付ける必要はない。相槌だけでも十分である。基本的には、「それはつらかったでしょう」「よく話してくれましたね」「あなたは悪くない」という三通りの反応で足りる。

一方、「これまでのことは忘れて、未来に目を向けて前向きに生きていきましょう」などとは決して言うべきではない。

安心できる場所で信頼する人物とともにトラウマ体験の記憶をたどりなおす中で、被災者・被害者は安心と信頼とを徐々にとりもどしていくことができる。トラウマ記憶にまとわりついていた恐怖感は、信頼する人物が自分と共にいて自分の話を傾聴してくれているという安心感によって徐々に置き換えられていく(図1)。

トラウマ体験を傾聴するという作業は、相当な忍耐を要する作業であるにせよ。

14年後の被災地

ここで話は突然、阪神・淡路大震災にもどる。

震災から14年を過ぎた被災地には、地震の爪痕はもうほとんど見当たらない。

それに替わって、大小さまざまな震災モニュメントが

街の中に見出される。それらの多くは、決して過度に自己主張することなく、街中にたたずんでいる。

日本人は忘れるのが上手である、とよく言われる。確かにそうである。戦後の著しく急速な経済復興も、日本人の忘れやすさ(もちろんよい意味での)ゆえのものではないかという気もする。しかし、それではいたたまれない人もいる。大切な肉親を戦争で失った人たちである。彼らは、ややもすると、敢えてつらい形で戦争の記憶にこだわり続ける。「自分が覚えていないと、死んだ肉親は浮かばれない」との思いからである。

戦争の犠牲者の遺族の、このようなつらいこだわりを少しでも軽減するためには、私たちこの列島に住むすべての人々は先の戦争について、正しい関心を維持し続ける必要がある。

同様のことが、阪神・淡路大震災についてもいえる。今回の被災地では、まだまだ十分とはいえないにせよ、“忘れ上手”な日本人がなんとかつらい記憶を維持し、語り継ごうとしている。

図2として、被災地最大の震災モニュメントを示す。関心のある方は、ぜひ一度訪れていただきたい。“忘れない”ために。

いわい・けいじ / 兵庫教育大学大学院教授 臨床・健康系



図2 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター (http://www.dri.ne.jp/)

「メールだったらできる」というあなたに朗報！ JIA 活動報告が簡単にできます

関東甲信越支部
広報委員会 HPWG主査
中澤 克秀

- ・宛先はカテゴリー別に各団体に割り当てられたアドレスです
- ・件名がブログのタイトルになります
- ・写真は添付ファイルにして送るだけ
- ・本文はメールを書くつもりでOK
- ・最後に署名して送信
- ・ホームページやブログが苦手というあなたでもメールは仕事でお使いになっていませんか？
- ・支部ブログ「JIA広報通信」に簡単に投稿できる方法があります。こちらを活用して各団体の活動を広く社会に知ってもらいましょう。
- ・広報委員会では皆様の広報活動を支援します。画期的なブログメール投稿をご利用ください。
- ・詳細は広報委員会にお問い合わせ下さい。



関東甲信越支部のホームページが リニューアルされました

ホームページ編

最新スタイルシートによるSEO対策も完備！
広報委員会の長年の夢、自動更新システムを運用開始

自動更新システムとは、各団体に発行されたIDとパスワードを利用して、各団体の管理者からホームページ上に自動的に情報が掲載されるシステムです。

これにより各地域会・委員会・部会は、自由に情報をすばやく発信することが出来ます。

JIA NEWS

おもにJIA本部や関東甲信越支部からのお知らせを、掲載する箇所です。トップページに掲載され、詳細ページが生成されます

イベント・セミナー情報

イベントセミナーページに掲載され、トップページからもリンクされます。事務局の他、各地域会、委員会、部会の担当者も直接入力することができます

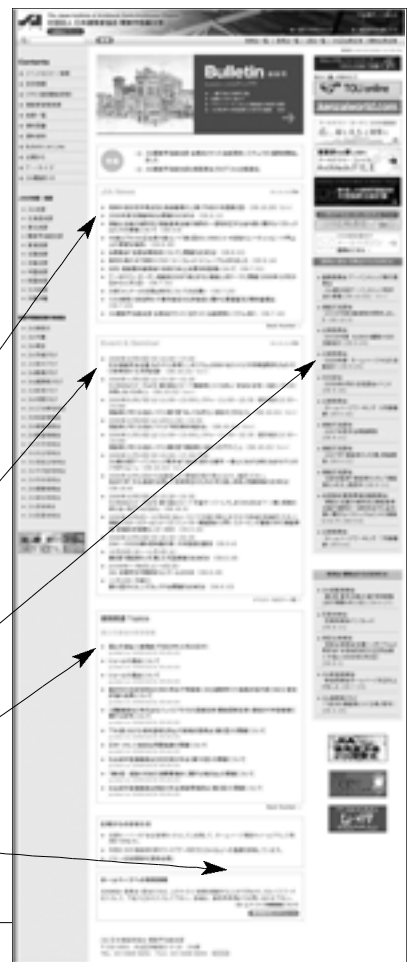
各団体からのお知らせ

最新のものはトップページに掲載され、各団体ページではその団体だけのお知らせが一覧で表示されます。団体名をクリックすると紹介ページに飛びます

建築関連Topics

国土交通省が発表する最新ニュースが自動的に更新されます。(試運転中)

管理者用ログインはこちらから入ることが出来ます



抱負を語る

『衣食住』の「住」として



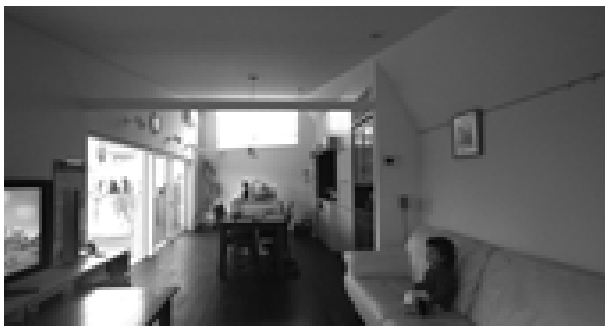
阿部 智樹

個人住宅を中心に設計してきたので、『衣食住』の「住」の仕事をしているという意識があります。「衣」や「食」と同じく、生活上必要な要素として、最も馴染みやすい娯楽として「住」を考えると、一般の人に説明がしやすく、住宅産業の説明をする時などは、「衣」(アパレル)や「食」(外食産業)を例に使います。そのため、両業界の人とは積極的に関わってきました。

もちろん、住宅産業でもハウスメーカー、工務店、建築家と大きく違うように、「衣」や「食」の業界でも様々な業種形態があります。外食産業では、個人の店舗を経営されている方と大手チェーンの販促をされている方では考え方が大きく違います。しかし、異業種との交流は、私達の業界のあり方や仕事の進め方などの不自然な部分を気付かせてくれます。また、「衣」や「食」業界から学ぶべき点も多いのですが、決定的に違う点もあります。それは「住」の業界は市場原理が合わないということです。「衣」や「食」の業界では、消費者として必ずリピーターを意識します。そして良くないものは消費者の判断で消えていきます。しかし、私達が扱っている住宅などの建築物は、二度目があることは少なく、クライアント(ユーザー)の声が表に出ることも少ないのです。つまり、良くないものでも、つくり手(売り手)の判断でしか変わらないのです。そこで必要となるのは、住宅や建築に関する正しい情報だと思います。

「衣」や「食」の業界以上に「住」の業界は正確な情報の発信を必要としているのです。今現在、一般の人が目にする情報は、メリットだけが強調された広告、建築を流行のように扱う一般誌、責任意識のないネット書き込みなどです。しかし、これらだけでは偏った情報になってしまいます。こういった情報の偏りをコントロールし、正しい情報を発信できるのは、JIAのような協会ではないでしょうか。もちろん多くの難しい問題を含んでいますが、一般の人とのつながりを良好なものにしたい、そういったお手伝いができればと考えています。

一級建築士事務所タステンアトリエ



住まいとしての空間

住宅的に考える



多羅尾 直子

パートナーの日色真帆とともに設計事務所を主宰しています。独立前に9年間勤務していた長谷川逸子・建築計画工房では、公共建築や集合住宅などを担当し、現場に常駐する機会に恵まれ、現場で考えることの面白さと重要さを実感しました。独立してからは、住宅の設計を通して住まい手と対話し、どんな生活をするのかを一緒に考えながら設計することを積み重ねてきました。

日色が愛知淑徳大学で教えている関係で依頼を受け、同じ学園内の愛知淑徳中学校・高等学校の校舎建替えプロジェクトに2003年～2007年の4年間、総括責任者として関わってきました。私立の女子校で築40年の旧校舎は愛着をもたれていましたが、教室は半屋外の廊下に面していて、中間期は快適なもの冬の寒さは厳しく、また職員室や準備室には長い間に物が蓄積し、使い勝手が悪く不自由な状況でした。学校の方々も何とか改善したいということで、とにかく居住環境をよくしよう、家具備品も建築とともに計画し、収納や使い方にゆるやかなシステムをつくらうと設計に取り組みました。

工事中の教育環境維持とコスト削減のために、仮設校舎を建てず、旧校舎を使いながら新校舎を建設するよう配置を決めました。制約は多かったのですが、工事中も隣接する旧校舎での日常の学校生活の様子を折々に観察し、住宅的なスケールで使い勝手を考えることができました。新校舎の中に旧校舎を活かし継承することができたのではないかと思います。

工事期間中は校内に現場事務所があったので、名古屋に2年半住んでいました。その間、東京を離れていたため、東京にもどってから建築家の方々と交流の機会が得られれば大変ありがたいと思いJIAに入会しました。また、JIAのコンペや賞にも応募していきたいと考えています。どうぞよろしく願いたします。

<(有)タラオ・ヒロ・アーキテツ>



愛知淑徳中学校・高等学校：学校生活の断面を視覚化する透明な中庭(設計：タラオ・ヒロ・アーキテツ、日本設計)

覗いてみました「他人の流儀」

三澤千代治さんに 「これからの住宅」を聞く



インタビュー風景

聞き手：Bulletin 編集委員

ミサワホーム創業者の三澤千代治さんが手掛ける、国産材を利用した2000年住宅「HABITA」が話題です。どのようなお考えで取り組まれているのか、いろいろ伺ってきました。

建築業界にはいられた経緯と、ミサワホーム立ちあげについて教えてください。

私は日大建築科ですが、3年のとき音痴のやつは建築家になれないと言われて建築家を諦めたんですよ(笑)。4年の夏休み、結核で入院して寝ていたときに天井の梁がとても邪魔に見えた。そこから梁のない接着パネル工法を考えました。それが省資源で構造ができるミサワホームの工法となった。32歳に会社を立ちあげて4年で上場。当時アポロ計画で、NASAが一企業でなく多くの会社の技術を統合して月にいったことから、それに習って、製造、販売がそれぞれ得意な会社を集めて、私どもは住宅の開発をする事務局だけをやったわけです。

三澤さんが、HABITAを手掛けるようになったきっかけとは？

1976年、建国200年でアメリカの2000年住宅を見てきたのが起点です。10年後、フランス、ドイツ、中国等、世界160箇所を調べたら、鉄やコンクリートはなく、すべて木の家なんです。日本にも1万棟ほど2000年住宅があって、リフォームをしていない家が344軒あった。

2000年住宅の答えは、地産地消・地元の木でやること。二つめは大断面・15センチ以上。乾燥材は絶対条件。それから真壁にして蓋をしないこと。この四つを守ると200年もつんですよ。昔の木造住宅ですね。

ミサワホームでは、強度や居住性がテーマで、耐久性はあま

りやってなかった。辞めてHABITAを始めたんです。まもなく安倍内閣を継承した福田総理が2000年住宅を唱えて、国交省はモデル事業の公募を開始し、5年間やることに。民間の話をよく聞こうということですね。

それと姉歯事件以来、業界は信用がないんですね。確認申請の厳格化や、住宅瑕疵担保責任保険も、住宅レベルの底上げにはなりませんよ。2000年住宅は非常に高いレベルですが、これをクリアしないと、お客さんは市場に戻って来ないということなんですね。それもあってか、HABITAの発表会には人がたくさん来るんですよ。

HABITAの概要について教えてください。

HABITAを扱うのは工務店さんなので、営業マンがいないことを考えたんです。

そうなるとう惑に訴えるしかない。まず視角。太い柱と梁を見て丈夫だなとわかるわけですよ。室内にはいると杉の木のにおいで嗅覚に訴えて、落ち着いていいと感じる。それからフィトンチッドというものがありましてね。米材に比べて国産の杉で5倍、松では30倍多く含まれているんです。森の中と同じで、すがすがしいおいしい空気と味覚に訴えているんですよ。あとは聴覚。部屋の音をつつぬけにして、お母さんがごはんだよという子供が出てくる - 開放性。最後に触覚は、木ですから触ればいい。人間は98%猿といっしょですから、木の枝にぶら下って緑を見ていれば、何となく幸せな気持ちになるわけで。だから申し訳ないけど、猿が住みやすい家をつくれればいいと(笑)。

あとコストダウンについて。ミサワでは、木が外国から、港、



SORA・MADO・さんぶ 外観



SORA・MADO・さんぶ 内観

覗いてみました「他人の流儀」

このコーナーは「独自のスタイルで活躍中の方にお話を伺い、その秘訣を探り出そう!」という企画です。話を聞いてみたい、あるいは興味あるテーマなどがありましたら編集委員会までお知らせ下さい。

製材所、乾燥所、集成材工場、プレカット工場などを経由して現場に届きます。建材も日本列島を走り回ります。それと職人さん。毎日1台づつ車にのって現場にくるわけです。これらの距離を合計したら16万キロメートルになるわけです。住宅費のうち、物流費が約1/3。これはひどいなと..ミサワのときにいろいろやったけど半分にはならなかった。今回はそれをやめて、地元ですべて密着してやると1万6000キロで出来そうなんです。すると三割安くなる。それから、材工や人工計算という曖昧な考えには改善が必要だし、工場での作業効率を大幅にあげることも大切です。

またHABITAでは、ひとつの工務店が、設計事務所、不動産会社とチームになって対応します。東京は半径1キロ。世田谷の工務店がモデル発表でチラシを3000枚まいたら30人も来た。地域密着がいかに大切かということですね。設計事務所も、地元の工務店、不動産会社と仲良くやれば良いと思うんですね。セブンイレブンが1万2000店あります。だからそんなチームを、同じ条件で将来1万事業所をみざす。そんなことをしたいなと思っているんですよ。

篤姫から170年。こんなに変わったわけですよ。200年だと、内外装、設備はどうなるかわからないというのがホントの話。だから骨組だけでもちゃんとつくりたいという考えですね。

ハウスメーカー、そして建築家について、どう思われますか?

日本は北から南まで気候風土がありますが、住宅会社はそこまで対応しきれない。それから工場、販売会社、工務店とで、粗利が五割ないと成り立たない。五割は厳しいでしょう。

今コーポラティブに関心があります。分譲はリスクが大きすぎる。まずお客さんが集まって組合をつくって、そこで素地をつくり、お金を借りて、工事を頼んで.....、お客さんも業者もまったくリスクがない。これからは、設計事務所と建築家には、あまり作品、作品と言わないで、コーポラティブを開拓してもらいたいですね。花が一年中咲くとか、大きい木を植えて森にするとか、コンセプトを建築家が最初に決めればきっといい街ができると思うんです。どうやってお客さんを集めるかは私どもがわかっているし、建築家とそういった仕事をしたいなと思ってるんですよ。いい街ができれば資産価値になるし、200年住宅も意味があるんですね。

何百戸というのはやはり難しいから、20戸くらいがいいと思います。

今までに御自身で設計された家や建物といったものはありますか?

私は人がつくったものにごちゃごちゃ言うのは好きだけど、

自分ではできないと思う。

私も70歳ですから。丹下さんが70歳で建築のことがわかってきた、80歳でよくわかった.....と言ってますしね。70歳くらいまでは、お客さんに迷惑かけて勉強するということなんですね。

現在世界的な不況に陥っていますが、今後の展望はどう御考えでしょうか?

私はいつも楽観的に考えるんですが.....、世界経済は10人くらいの人が何十年もかけて考え、そういう流れのなかに我々はあるのだと思っています。200年住宅は環境にいい、だからその環境という大きな川で、川上を目指したり、直角に泳ごうと思ってもそれは無理。川に流されながら対岸に着く。やはり環境に逆らうというのは危ないんじゃないですか。

ところで、いま100年ローンをつくりたいと思っています。借金を残したまま次の代に移す。つまり物件にローンがつく。3000万の35年ローンだと月々10万円の返済が5万をきるんです。そうすると賃貸がなくなって、皆持ち家で住んじゃう。また100年住宅を継続するために、車検のような検査制度をつくる。10年ローンを10回というように。来年夏くらいまでにまとめたなと思っているんです。内需拡大といういい手がないけど、これだと銀行もリスクがないですよ。高い返済だから引っ掛かるわけで。100年、200年もつ住宅ができそうだとすれば、どうだろうかという感じですね。

インタビューを終えて

興味深いお話を伺い、建築家も設計ばかりに没頭するのではなく、融資のしくみや、環境、そして街全体まで、より広い視点から、住宅や建築を考えるべき時代になったのではと感じました。最後に個人的な興味について伺ったところ「私は住宅バカだから。家つくるの、面白いですよ」とのこと。とことん住宅にこだわる三澤さん、パワーとバイタリティに満ち溢れていました。聞き手：湯浅剛・中村高淑・三上紀子

三澤千代治氏 経歴

MISAWA・internationa株式会社代表取締役社長

1938年 新潟県生まれ。

日本大学理工学部建築学科卒。

1967年 三澤木材株式会社を経て、

ミサワホーム株式会社を設立

1971年 東証二部に上場(当時33歳、史上最年少社長)

2003年 名誉会長に就任。2004年、同社退社。

2004年 MISAWA・internationa株式会社設立、代表取締役就任。



委員会活動報告

交流委員会

お台場回り夜間照明見学

Eグループ施設見学会より



Eグループ正会員
(株) 蒼設備設計
相野谷 誠志

毎年恒例となりましたEグループ主催の施設見学会(お台場回り夜間照明見学)を7月23日に行ないました。

今回は、常日頃交流委員としてご活躍されているみなさんに加え、交流委員長の鈴木氏(大建設)、前交流委員長の木村氏(梓設計)、また他にも、島津氏(圓建築設計事務所)、門脇氏(梓設計)、高橋氏(U.R.A.一級建築士事務所)の正会員の方達にも参加していただきました。また、Cグループの立石氏((株)ヒガノ)も参加され、Eグループ内だけでなく、有意義な交流の場が持てたことに、参加していただいたみなさんに感謝すると共に、大変うれしく感じました。

コースは、毎年同じように品川より屋形舟に乗り、お台場前の海上より夜景(あっ、違いました!照明でした!)を見ながら、またおいしい江戸前の天ぷらを食べながら、楽しい一時を過ごしました。

また、今回はみなさん各自にて景品を持ち寄って、ピ

ンゴ大会を行ないました。それぞれの特色のある景品により、大変盛り上がりました。これも恒例となっているキャサリン(?)の登場により、さらに楽しいイベントとなりました。

このように、楽しい中にも交流委員のみなさんや、正会員の方達との交流の場が得られることが、本来の交流委員会の目的ではないかと思ひ、さらにこのような機会を数多く行なえる環境作りと、そのような機会に数多くの方達に参加していただけるような努力をしていきたいと感じました。

最後に、いつもこのようなイベントを苦勞しながらお世話いただいていますEグループ代表幹事の重岡氏(パナソニック電工(株))や同じパナソニック電工のスタッフの方たちに感謝していることを、伝えさせていただきます。

また来年もぜひこの企画を続けていきたいと思ひますので、次の機会にはEグループだけでなく、全グループの方達に参加していただき、交流の場を拡大していけるように願っています。

あいのや・せいじ/(株) 蒼設備設計

船上よりフジテレビ回り夜間照明を望む



船上よりレインボーブリッジ夜間照明を望む



保存問題神奈川大会

第18回保存問題神奈川大会プログラム紹介



保存問題神奈川大会
実行委員長

倉澤 智

近代化遺産を市民にひらく 横須賀、浦賀が伝える近代の記憶の景

はじめに

およそ1年間をかけて準備してきた保存問題神奈川大会(以下大会)のプログラムが確定しました。前号(12月号)のブルティンでお知らせしたように、第18回を迎える本大会は、「近代化遺産を市民にひらく 横須賀、浦賀が伝える近代の記憶の景」というテーマのもとに横須賀で開催されます。本稿では、大会の具体的なプログラムについてお知らせしたいと思います。

第1日目午後：横須賀の近代化遺産を巡る

エクスカーション(2月28日午後)

第1日目は、横須賀中央および横須賀の東京湾岸に残る近代化遺産を巡るエクスカーションです。はじめにかつて横須賀村であった横須賀本港から遊覧船を貸し切り、海から横須賀を俯瞰します。現在米軍基地内で稼働し、日本に現存する最古のドライドック(横須賀造船所1号ドック)から始まり、長浦港(田浦地区)に面する旧横須賀海軍工廠造兵部時代の倉庫群、ガントリークレーン、新井掘割水路(人工による水路)を海上から視察します。次にバスに乗り換え、浦賀地区に移動し、旧海軍航空技術廠期の近代建築が残る工場群((株)岡村製作所)へ、また先に海から俯瞰した田浦地区の鉄骨造および煉瓦造木造トラス屋根の倉庫群(相模運輸倉庫(株))を見学します。エクスカーションの最後には、旧丸ビル的设计者として知られる桜井小太郎設計による旧横須賀鎮守府長官官舎を見学します。チューダーゴシックの様式が採用され、洋館と和館が接続する住宅です。現在、海上自衛隊横須賀地方総監部の管理にありますが、この大会のために特別に公開していただくことになりました。第1日目はこの長官官舎から看板建築が残る上町(うわまち)地区を歩きながらホテルへ戻り、懇親会へ移ります。

第2日目午前：浦賀と浦賀ドックを巡る

エクスカーション(3月1日午前)

第2日目午前中は浦賀へ移動し、西浦賀に残る蔵、町屋をはじめ、午後のシンポジウムの会場となる浦賀ドックおよび機関工場内部を巡るエクスカーションです。浦賀ドックは、煉瓦積みみのドライドックとして、同じ浦賀に存在する川間ドックと共に日本においてこの浦賀の地に2基しか残存しない希少なドライドックです。江戸の面影の残る西浦賀の街と1899年に竣工

した浦賀ドックを含む工場群による近代の風景の対比を見学していただこうと思います。

第2日目午後：基調講演+パネルディスカッション

(3月1日午後)

大会の締めくくりは、浦賀ドックおよび機関工場の保存活用をテーマとした基調講演とパネルディスカッションを開催します。第1部として、浦賀ドックの実験的活用を行ってきたレンガドック活用イベント実行委員会の報告から始まり、北沢猛氏(東京大学大学院教授)による基調講演として、内外の近代化遺産の保存活用の展開という一般論から、横須賀の近代都市計画や浦賀ドックについて、さらに歴史的文化的遺産と都市づくりについてご講演いただきます。第2部では、具体的に浦賀ドックの保存活用についてのパネルディスカッションを行ないたいと思います。2003年に閉鎖された浦賀ドックの保存活用について、パネリストとして学識者、建築家、ミュージアムの運営者、行政、市民というそれぞれスタンスの異なる方々に参加いただき、浦賀の街、大きくは横須賀の将来像を踏まえ、いかなる保存活用の可能性があるのか、解答を模索したいと思います。この議論の中で、浦賀ドックの問題だけでなく、各地域に残る近代化遺産の保存活用を考えるヒントとなるパネルディスカッションを目指したいと思います。

おわりに

今回の大会のエクスカーションで見学する建築物は、特別な許可をもらい見学させていただけることになった建築物ばかりです。この機会に横須賀の近代化遺産の奥行きを感じていただくと同時に、基調講演やパネルディスカッションを通じ、今後地域資産としてその有効な活用が望まれる近代化遺産についての認識を深め、各地域で近代化遺産を発掘し、市民と共に議論する、そのような活動へ導くきっかけとなるような大会にできればと考えています。

2月28日と3月1日、横須賀に是非お集まりいただき、大会のテーマにあるように、市民と共にあるべき成功に向けて、どうぞ皆様の参加と呼びかけによって大会を盛り上げて頂きますようお願い申し上げます。

くらさわ・さとる/(有)倉澤智建築事務所

地域会活動報告

栃木県地域会

「第15回 JIA 栃木クラブ・スクール in 栃木」
が開催されました

「見る」「聞く」「話す」の体験プログラム

栃木県地域会
慶野 正司

晩秋の風の吹く11月15日・16日の二日間、第15回を数える今や栃木地域会の恒例事業として定着した「スクール in 栃木」が開催されました。これは県内の建築を学ぶ学生とJIA会員を対象として、一緒に見学したり、講話を聞いたり、ディスカッションやものづくりなどのプログラムを通じた体験型研修の事業であり、また「栃木クラブ賞」「建築見学会」など学生の育成・交流をテーマとした当地域会の年間活動の一環として開催しております。

今回は、古くから栃木県の代表的建材の一つである大谷石に焦点を絞り「大谷石空間とものづくり」をテーマとして「見る」「聞く」「話す」の体験プログラムで、参加者は宇都宮大学、足利工業大学、小山高専の建築学科の学生と会員や一般参加で総勢28名の一泊二日の研修会です。

「見る」では、宇都宮市内を主とし、大谷石造りでロマネスク様式の松が峰教会などの建築空間から大谷石採掘現場に至るまで様々です。圧巻は大谷石資料館の地下にある採掘場跡です。大谷石の塊の山を掘りこんだ跡で、勿論床から壁、天井に至るまで巨大な大谷石の洞窟が大小のボリュームで縦横無尽に渡る空間は訪れる者を圧倒します。今では洞窟内でコンサートなどのイベントも



大谷石造りの「松が峰教会」

数々企画され貴重な産業遺産は建築家の創造力を上回る感動的な空間として活きています。

また、「ものづくり」の現場見学で訪れた紙造形作家の渡辺恵美子氏と陶芸作家の谷口勇三氏のアトリエでは作家の思想や作品を通して「ものづくり」のダイナミズムや優しさに触れることができました。

「聞く」では、建築家「中山繁信」先生をお招きして、「大谷石」「建築家のスケッチ」などのテーマで講話をいただき、人間味深い空間づくりやデジタル化の設計ツールでは得られない柔らかい設計手法について再認識することができました。

「話す」は、この事業で恒例となった学校の枠を超えたグループディスカッションです。

「今日、見て、触れて、聞いた事について」をテーマにグループごとにさらにテーマを絞り、活発なディスカッションが行なわれ、その後発表です。ディスカッションの大半は栃木県が誇る大谷石建築の文化で、その素朴さやあたたかさ、またその力強さのある素材に参加者一同改めて親しみを抱いた結果となりました。

宿泊地は、ひっそりと山間にある廃校の木造校舎です。旧熊の木小学校が廃校となりNPOが《星ふる学校「くまの木」》という体験宿泊施設として運営しています。職員室が管理事務室、教室が宿泊室や研修室、理科室が蕎麦打ち体験室などなど、できるだけ原型を保ちながらの活用で、学生達は新たな発見、JIA会員は懐かしさに浸りながら山里の静かな一夜が明けました。

二日間の山盛りプログラムは、多少のアクシデントを伴いながらも参加者それぞれの脳裏に様々な影を焼き付け育っていくことを期待するものです。

では、また来年お会いしましょう。

けいの・しょうじ/（有）アトリエ慶野正司一級建築士事務所



星ふる学校「くまの木」にて参加者の皆さん

城南地域会アーバントリップ

「良い建築を知るには、
良い建築を見るのが一番である」

金山町の街づくりと酒田市の建築を訪ねて



島田 喜男

一通のメールが届いた。城南地域会の方からアーバントリップへのお誘いであった。山形県の金山町は建築家を大事にしている町だということは知っていたし、益子義弘さん設計の金山町火葬場は機会があれば是非見たいという思いを抱いていた。さらに酒田市の土門拳記念館（谷口吉生設計）もいつかは見てお



金山町遊歩道

きたい建築と長年思っていた。この地方には不便でなかなか行けない。お誘いの案内を見て、こんな好機は二度と来ない、思いが叶う時が来た。定員で断られてはいけない、ただ、地域会以外の者でもよいのかと思いつつ、すぐに申し込んだ。

旅行の前に城南地域会に出席し、切符を渡され、旅行の説明を聞いた。旅行を十分に楽しむには前もって知識を得ておくのが良い。それにより旅への期待感が増し、楽しみが長く続く。金山町は地域会の林寛治さんが数十年にわたってアドバイザーとしてまちづくりに参加している。金山町は農林業だけの人口10,000人以下（現在7,000人弱）の典型的な農山村であるが、英国人旅行家イザベラ・バードがロマンチックな雰囲気のある場所と称したこの地域が、数十年前に赤や青の派手なトタンをかぶせた屋根に変わり、新建材で包まれる住宅に変わっていきこうしていた。林さんは町内の大工や左官たちの意欲を盛んにし、美しい街並みとして金山型住宅というデザインを勧める運動をし、一軒一軒を説得していったそうである。林さんは言う。大上段にかまえた町づくりは成功しない。一つ一つ、点から始めていく。その点はやがて線になる。次に線から面になっていく。点から線になるのはとても時間がかかるが、線から面になっていくとどんどん早くなっていく。現在出来上がっている金山型住宅（写真1）は全戸数の3割以上に達したという。100年かければほぼ全住宅の建替えが出来る「街並みづくり100年運動」が続いているそうである。

旅行当日、一行は9名で50代終わりから80代初めの平均年齢70歳だ。皆、年齢より若々しい建築家ばかりである。列車

で4時間弱、そこから北へ19km入ったところに金山町はある。やはり遠いなあ、と呟く。最初に金山町火葬場を見学する（写真2）。林の中に静かに建っている。内外ともコンクリート打ち放しだが、内装に木材をバランス良く使い、それ故に冷たさはなく、むしろ暖かさを感じる空間となっている。旅行の仲間か

ら、この火葬場で終焉を迎えたいなと、声上がる。同感である。素晴らしい。

その後、木の香りのある明安小学校（小沢明設計）、金山中学校（奥村昭雄、益子義弘設計）、木造で屋根付きの「きごころ橋」（片山和俊設計）金山町の街並みを見学する。素晴らしい。林寛治さん設計の金山小学校、町立病院を見学の後、2棟の土蔵を改築した町並みづくり資料館、昭和初期の木造の郵便局の外観をそのまま残して改築した「町並み交流サロン・ぼすと」（写真3）等、林さんの力作を見せてもらった。まだまだ沢山の見どころがあり、食べ物のこと、ホテルのこと、町の人のこと、どれも大満足があるが、このくらいにして、翌日の見学についてお話ししたい。

陸羽西線のローカル電車で最上川沿いを下り、酒井市に入った。土蔵造りの山居倉庫は一般の見学者で賑わっていた。次の土門拳記念館（写真4）は長年の願望が叶って、少し興奮した。小高い丘と池という場に、その造形がぴったりと融合していることを見て、時が止まってしまう感動である。その建築に入ってゆくに連れ、素晴らしい空間が変化していく。どこに身を置いても美しい空間である。「良い建築を知るには、良い建築を見るのが一番である」とアルヴァ・アールトは言った。良い建築の場にいると少しでも長くそこに居たい。

城南地域会の皆さんには大変お世話になりました。越境入学してこちらの地域会に入りなさいと言われるフレンドリーな地域会である。次のアーバントリップが楽しみだ。

（株）島田建築事務所



写真1 - 金山型住宅



写真2 - 金山町火葬場



写真3 - 「町並み交流サロン・ぼすと」



写真4 - 土門拳記念館

管理建築士みなし講習を受けて



櫻田 修三

改正建築士法では、管理建築士となるための要件として、講習の受講を義務付けた。2008年11月28日の施行前に実施する講習がみなし講習だ。5時間の講習の後、1時間の考査を受ける。考査に合格すれば、講習終了が認められる。記憶力も年々低下傾向にあるので、なるべく早く受講した方がよさそうだと思ひ、初回に受けた。2回目ぐらいの方が、良かったのではないかと後悔したが.....。

講習会場

初回は、受講者が少なかったのか、神奈川県民ホールの大会議室が会場であった。240名の定員は満席であった。会場周辺の食堂は混雑すると思ひ、弁当と飲み物を持参した。

A4版205ページの「管理建築士資格取得講習テキスト」を受け取る。正直、5時間の講習は気が重い。会場の空気も、なんだか重苦しい。

講習内容

テキストの序文には、『『耐震偽装問題』で、管理建築士の要件を強化した。本テキストの講習によって、これ

まで培った知識を再整理していただく。さらに、新たな知識を習得して、社会に信頼される管理建築士になって、業務に臨んでいただきたい」と書かれている。

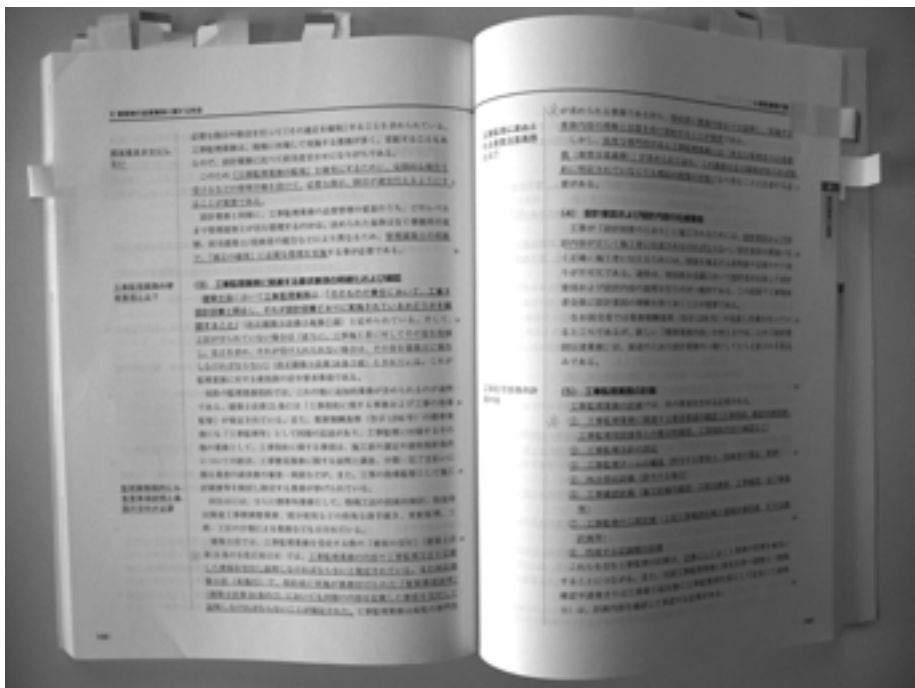
改正前は、管理建築士の要件は建築士であること以外の規制はなかったが、今回は3年以上の実務経験が必要で、さらに登録講習機関が行なう講習の課程を修了した建築士でなければならないとされた。なんだか設計のおおらかな関係性が失われていくように思うのだが。

さて、講習内容は、「建築士法・その他関連法令に関する科目」と「建築物の品質確保に関する科目」で構成されている。重要な内容には、下線が引かれている。講師の方も初めての経験なのでだろうが、重要な事柄については、詳しく解説されているので、分かりやすい。特にびっくりしたのは、CPD制度についても言及していることであった。

結果

8月と9月に開催されたみなし講習の修了者は1万2530人。修了率は99.4%。受かってほっとしたが、受講料が1万5750円で総額約2億円。10月と11月にも

行なわれたから、ずいぶんと時間と費用が費やされたことになる。管理建築士は1回修了すればよいが、建築士の定期講習は3年ごとに行なわれる。管理建築士を修了しても建築士の定期講習は受けなければならない。その受講料も1万5750円。地方公共団体などの事務所登録をしていない建築士は、定期講習が義務付けられていないという。ちょっと理解できないが.....。



管理建築士資格取得講習テキスト

企業組合 創和設計



渡辺武信氏講演会： 住宅における物語性と ヴァナキュラー性の意味



住宅部会
連 健夫

12月9日、関東甲信越支部住宅部会主催で渡辺武信氏の講演会が60名を越える参加者の中、行なわれた。テーマは「住宅における物語性とヴァナキュラー性の意味」である。氏の著書『住まい方の演出』と訳書『建築家なしの建築』を手がかりに氏の作品を含めた講演と共に進行役(筆者)との対話の中で建築家、渡辺武信氏の味を浮き彫りにするという企画である。会に先立ち、鈴木理巳部会長から、氏の著書の重要性と共に、異なる世代の交流の大切さが述べられた。

武信氏一流の多様な方向で話が展開する中、まず表出したのは、氏の親友かつライバルであった宮脇檀氏との違いであった。宮脇氏のボックスシリーズに代表されるモダニズムに対し、勾配屋根を支持するなど、モダニズムとは一味異なる視点である。「私は変わらないが、宮脇氏は変化し続けた」とのコメントもあった。氏の作品の特徴に日本文化に対する深い洞察がある。これは『住まい方の演出』の中で、外開きの扉の利点、襖や障子を通して人のけはいを感じる心、縁側の動線と交流の機能などが分析されている。またドラマという言葉が映画の事例と共にたびたび登場し、ドラマを作る演出、すなわち物語性の設計についてクライアントの意識を具現化する姿勢がうかがえる。氏の住宅設計の手法に「ロック」と「奥」がある。アレキサンダーとシャマイホフ著『コミュニティーとプライバシー』



服のデザインに話が及び、立ち上がって熱く語る渡辺武信氏

で提示されたプライバシーを確保するための干渉空間が「ロック」であり、プライバシーが確保された安心できる奥まった場が「奥」である。これらの手法を含め、画像により氏の作品説明があった。この中で「壁を大事にする / インテリアをニュートラルにする / 装飾的にしない / 居間に吹抜けを作らない / 窓には垂れ壁を設けない」などデザインの特徴が語られた。

ポストモダニズムにおいて様々な思想が展開する中で、骨太の思想として物語性と文脈主義があげられる。ヴァナキュラー性は文脈主義に繋がり、それらが氏の著書と作品に見られるのが興味深い。なぜなら、氏が建築教育を受けたのは、1960年代であり、モダニズムの思想がダイナミックに展開されていた時期であるからである。インターナショナルスタイルと対比的な、バーナード・ルドフスキー著『建築家なしの建築』(1965年)は世界の建築思想に大きな影響を与えたわけであるが、それを氏が翻訳する中で、無意識にせよ何らかの形で氏自身の建築に影響を与えたのではないかと推察される。宮脇檀研究室OBや学生からも質問やコメントがあった。氏の厚みのある建築観は参加者にも刺激を与えたのであろう。氏が、講演会において最も求めていた異世代間交流への思いは、氏の建築理念と共に参加者達にしっかりと伝わったのではないと思う。

氏は「建築家はクライアントのお金を使って建築をデザインしているから、建築は芸能である」と明言した。そこにはクライアントの思いを形にする姿勢がにじみ出ている。この講演会の前打合せで氏から手紙を頂いた。「連さんが紹介して下さったように(機能主義の風潮の中、その後のモダニズムの動向を捉えた)というほどの業績をあげたまでは思っていません。ただアトリエ事務所に抛る一人の建築家としてクライアントが言葉では表現できない要望まで読み込んでデザインしようと心がけてきたことは確かです」とあった。講演会では時間の関係で紹介できなかったが、世代を超えて再考すべき意味深き言葉である。

むらじ・たけお / (有)連健夫建築研究室

お知らせ

飲食店にはグリース阻集器の設置が義務づけられています

東京都下水道局

排水管に油を流すと悪影響が！

(1) 建物内の環境を悪化させます！

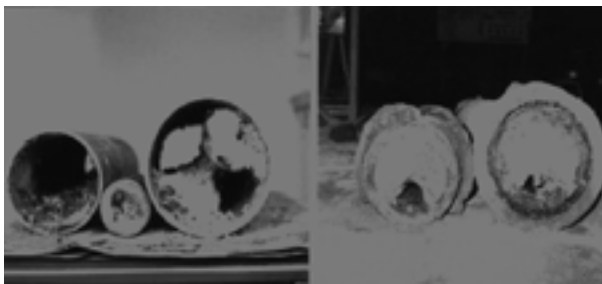
皆さん、使った後の油はどうしていますか？ 流したときは液体だった油も、排水管内で徐々に冷えて固形物となり、それが管内に付着して排水管や下水道管を詰まらせます。ビルの中で詰まれば、汚水が逆流して室内に噴き出すおそれもあります。また、閉塞した排水管の清掃には多額の費用が発生します。

(2) 自然環境を悪化させます！

下水道管内に付着した油の固形物は豪雨時の水圧によりはがれ落ち、河川や海に放流され、東京湾の水質悪化の原因の一つとなっています。下水道局では河川などに流れ出た油脂の塊を、「オイルボール」と呼び、オイルボールのない東京湾の実現を目指しています。

下水道ができること

下水道局では下水道管の増径や河川への放流口にオイルフェンスを設置するなどの対策を実施しています。しかし、これらの対策ですべてが解決されるわけではありません。特に、排水管・下水道管の詰まりの防止については、都民の皆様、飲食店の皆様が排水管に油を入れないようにする必要があります。

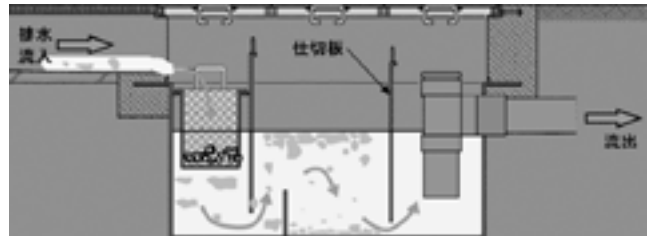


油脂によって閉塞した排水管

飲食店ができること

一般家庭とくらべて大量に油を使用する飲食店などは、グリース阻集器の設置とともに適正な維持管理も必要です。

建築基準法関連規定（建設省告示第1597号、昭和50年12月20日）において、設計者は飲食店などにグリース阻集器を設置するように義務づけられています。また、東京都下水道条例施行規程でも、飲食店などにはグリース阻集器の設置が義務づけられています。



グリース阻集器の例

設計者のみなさまへのお願い

グリース阻集器の設置は、単に設置義務を果たすだけでなく、建物内の環境と自然環境の改善に大きく寄与するものであり、建築物の所有者にとってもメリットのあることであります。

しかし、実際には飲食店が阻集器を設置したくても、建築物が完成した後からでは阻集器を設置することができないケースも発生しています。そこで、建築物の設計の際には、法令および要綱を遵守し、グリース阻集器を設置するようにお願いいたします。設計時に飲食店の業種までわからない場合には、どのような飲食店が建物に入っても対応可能な大きめの阻集器をあらかじめ設置するなどの検討をお願いいたします。

問合せ先

東京都下水道局 施設管理部 排水設備課
排水設備係 電話：03-5320-6583

NEWS

2009年「新春の集い」開催(1月16日)

毎年恒例の関東甲信越支部の「新春の集い」が開催されます。2009年1月16日(金曜日) 建築家会館にて
14:30~16:20会員懇談会「UIA大会に向けて(仮称)」
17:00~19:00新春の集い

「登録建築家」新規申請受付期限変更

2月28日に変更になりました。今回は、JIA会員であることを条件とした最終申請受付になります。

瑕疵担保履行法への要望・意見を募集

(12月26日付)

2009年10月1日に「住宅瑕疵担保履行法」が施行されました。JIAは関係団体とともに国土交通省と協議を行っており、現在、会員の皆様から要望・意見を募集していません。

契約書を使用する場合の注意事項(11月25、28日付)

改正建築士法等が施行されました。JIAが発行している「JIA版建築設計・監理業務委託契約書」はそのままお使いいただけますが、注意が必要になります。四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書等も同様になります。

日本建築大賞・日本建築家協会賞公開審査、 新人賞受賞者発表

2009年1月31日、建築家会館本館1階 大ホールにて上記の公開審査と発表が行なわれます。

委員会・地域会・部会からのお知らせ

第59回JIAアーバントリップ

テーマ:「建築家槇文彦氏と建築」

日時:2008年1月28日(水)

[Aコース] 9:00~18:00(予定)

[Bコース] 16:00~18:00(予定)

(アーバントリップ実行委員会)

第18回保存問題・神奈川大会開催

近代化遺産を市民にひらく

横須賀、浦賀、近代の記憶の景

2月28日(土):横須賀市内近代化遺産見学

3月1日(日):午前中・浦賀ドック見学

午後・浦賀ドック内でのシンポジウム

I.基調講演「近代化遺産を市民にひらく」講師:北沢猛氏

(東京大学教授、柏の葉アーバンデザインセンター・センター長)

II.浦賀ドックの保存活用

交流委員会、建築相談委員会、文京地域会、世田谷地域会、住宅部会、建築交流部会のHPが更新されています。

新コーナー!

建材情報

JIA関東甲信越支部のHPには、賛助会員企業の新製品や技術情報が掲載されています。新製品は「賛助会員企業の新製品情報」、技術情報は「技術情報」でご覧いただけますが、本号では昨年度掲載された新製品情報を紹介します。

様々な天井デザインを可能にする「オーダーメイド天井」
オフィスに適した「ハイ・グリッドシステム天井」
住宅用ロックウール断熱材「ダンレーマット」
安全・安心の透明な防煙垂れ幕「ダンスモーク」
安全な暮らしを支える、日東紡グループの「環境改善工事」
ロックウール化粧吸音板「ソーラント」
ペット対応住宅用タイルカーペット
「ホームカーペット静床ペット」
巻付け耐火被覆材「Vガード」
[日東紡績株式会社](インテリア・材料:D3グループ)

三菱ルームエアコン「霧ヶ峰ムーブアイFitZXVシリーズ」

三菱電機空冷式ヒートポンプ/空冷式冷房専用チラー
「コンパクトキューブシリーズ」
[三菱電機株式会社](搬送機器:E3グループ)

三菱電機業務用エコキュート サニーバックQECD
[三菱電機住環境システムズ株式会社]
(空調衛生設備・メーカー:F2グループ)

特許機器の防震システム

天吊空調設備スプリング防水スリムハンガー「HSS」

[特許機器株式会社](空調衛生設備・メーカー:F2グループ)

BACの水蓄熱システム製品

[日本BAC株式会社](空調衛生設備・メーカー:F2グループ)

『灰の文化誌』

- ・小泉武夫著
- ・B6版285ページ ・定価：1400円＋税
- ・1984年12月刊 ・リプロボート発行



環境にやさしい住まいやヴァンキュラーな建築が再認識されているこの頃ですが、風土に根ざした日本古来の暮らしについて思いをめぐらすのもまた楽しいものです。そんな昨今、図書館で一冊の本を見つけました。その名も「灰の文化誌」。1984年に出版された本ですが、他に類を見ないその豊富な内容を受けてその後『灰に謎あり 酒・食・灰の怪しい関係』(NTT出版)という題名の書籍に刷新されています。

灰は昔の日本の生活には欠かせないものでした。しかしこれまであまり関心が寄せられていませんでした。そんな灰にまつわる興味深い話が、食生活、社会、風俗、宗教、芸術、自然界などの諸分野にわたって展開され、灰が持つ科学性・神秘性を解き明かしてくれます。酒や醤油・味噌・和紙・焼き物・海藻などと灰との密接な関係についても記されており、何よりも風土に沿った日本古来の食文化や暮らしの様子を垣間見れるのが楽しい。専門書というよりも読み物として楽しめます。時には化学記号でその根拠を明快に解説してくれる、実に納得・爽快、おすすめの一冊です。

三上紀子/レジオン・コンサパティブ(株)一級建築士事務所

編集後記

あっ！という事件や事故が多数発生した子年でした。前年からの猪突猛進が過ぎたのでしょうか。今年は牛歩でもいいからじっくりと事を進め、真の雄々しさにバトンタッチしていきたいものです。(M.A.)

安心や安全が、様々なところでささやかれ、深刻な事態もある昨今。グローバルも大切でしょうが、自身や身近なところに思いを馳せようと、年末年始を過ごそうと思います。謙虚さ、素直さ、感謝の気持ち……。(M.I.)

挨拶もそこそこに師走のまちを駆け抜ける営業マンの顔や明るき来る年感じつつ (Hf.Ko.)

あたらしい年を向かえ今年のテーマは何かと考えるに、気になるのは様々な分野で使われている「地球環境」という言葉である。今年は創作活動の中で「地球環境」というテーマをじっくりと考え、取り組むべき方向を掴もうと思う。(Hy.Ko.)

新しい年の挨拶メールとともに、会員の訃報メールが届く。支部、地域会で活躍された方の訃報のため大変な驚きである。謹んでお悔やみ申し上げます。(Y.Ko.)

明日は明日の風が吹く、のりくらりと独立して25年が過ぎた。パブルの波も小さかったが、崩壊の波もなかった。この数ヶ月、波を感じるのはい歳のせいかな？ それでものりくらりと春を迎える。(K.Ku.)

「あたらしい年を迎えて小正月」 今年は、緊張と弛緩のバランスを上手にとっていきたいと思います。(N.M.)

あ！という間に一年が過ぎ、JIA活動が充実した一年でした。いかんいかん！本職がおろそかになっている。ペースもわかってきたしポチポチと行きたいなあ～(K.N.)

あたらしい年を迎えるにあたり、2009年の目標を決めました。40歳代となり運動不足の解消とダイエットのために毎朝運動することに。夜型の生活を改め、こんな時代だからこそ爽やかな気分で一日を過ごしたいものです。(N.T.)

Hasta mañana(明日があるさ)ならぬ「hasta来年」不況の話があふれる中、努力、忍耐、頑張りが必要。でも、時には「アスタ マニャーナ！」の楽天性がもっと必要な、そんな事を思う年の瀬です。(R.S.)

アルヴァ・アアルト、北欧ブームですが、建築家にとって北欧といえばアアルトですね。歳を取るごとにアアルトのような木を用いたデザインが良くなっていくのは、同じ木の文化をもつDNAなのかもしれない、などと考えています。(N.T.)

あき・秋=フランス語でオトンヌ。最近飼い始めた犬の名前です。オトと散歩するようになってはじめて、犬連れの人の多さに気がつきました。人間やはり興味をもたない何とも見えないのと同じなんですね。(T.Y.)

- 編集** : 社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部 広報委員会
- 委員長** : 中村 高淑
- 副委員長** : 近藤 剛啓・鈴木 利美
- 委員** : 安東 政朗・池元 真克・倉島 和弥・近藤 弘文・古池 廣行
三上 紀子・中澤 克秀・杉本 由美子・田中 宣彰・湯浅 剛
- 編集長** : 鈴木 利美
- 副編集長** : 湯浅 剛
- 編集委員** : 安東 政朗・池元 真克・倉島 和弥・田中 宣彰・中村 高淑
三上 紀子・菊地 良一
- 表紙デザイン** : 山本 信治 / **本文デザイン** : 神田 雅子
- 制作** : 山口 尊敏

- 発行人** : 菊地 良一
- 発行所** : 社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
〒150-0001東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294
- 印刷** : サンデー印刷社

JIA関東甲信越支部関連サイト一覧

- ・(社)日本建築家協会 (JIA) <http://www.jia.or.jp>
- ・建築家online (一般向け) <http://www.jia-kanto.org>
- ・JIA関東甲信越支部 (会員向け) <http://www.jia-kanto.org/members>

©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2009

広告

INAX